

## SY1-2

## 沖縄県幼児のむし歯ワーストからの脱却 「親子で歯っぴ～ プロジェクト」の成果について

比嘉 千賀子

沖縄県小児保健協会理事

沖縄県3歳児のむし歯有病者率は減少しているものの、全国に比較して高く長らく全国ワースト1、2位であった。沖縄県下の乳幼児健康診査のデータを集積しデータベースを構築していた沖縄県小児保健協会が縦断データとしてのデータベース化が図られ、乳幼児の健康について因果関係を明らかにすることが可能になり、沖縄県における3歳児のむし歯と関連する要因を検討した結果、むし歯予防対策の優先順位を決める有力な知見が得られた。

得られた知見を基に、沖縄県は、家庭における仕上げみがき実施率の向上及び低年齢からのフッ化物応用を普及定着させることにより、効果的に乳幼児期のむし歯状況の改善を図ることを目的として「親子で歯っぴ～ プロジェクト（以下「プロジェクト）」を平成28年度から令和2年度までの5年間沖縄県小児保健協会に委託し実施された。プロジェクトの内容と成果について報告する。

実施した内容は次の通りである。

- ・プロジェクト検討評価委員会の開催。
- ・乳幼児健康診査における歯科保健指導内容の標準化のため乳幼児歯科保健指導マニュアル及び保護者説明用媒体の作成。また、保護者へ配布する啓発用チラシの作成。これらの活用を図るため乳幼児健康診査の従事者及び市町村関係者等に対する研修会の開催。
- ・選定した8つのモデル市町村における対象児への乳幼児健康診査（乳幼児健康診査後期、1歳6か月児健康診査、2歳児歯科健康診査、3歳児健康診査）でのケアグッズ（仕上げみがき用歯ブラシ、デンタルフロス、フッ化物スプレー等）の配布及び啓発用媒体を活用しての歯科保健指導の実施。また、モデル市町村では、仕上げみがきなどの状況についての実態把握や、プロジェクトの効果検証のためのアンケート調査を実施。

プロジェクトの成果については、乳児健康診査後期、1歳6か月児健康診査及び3歳児健康診査の各健診結果及びアンケート結果の突合ができた1,403件について解析を行った。

プロジェクト開始時に設定した3つの成果指標の達成状況について

- ①「仕上げみがきを毎日実施する児の割合」については、1歳6か月児では、県全体で13.1ポイント、モデル市町村では13.7ポイント増加した。また、3歳児では、県全体で7.3ポイント、モデル市町村では6.3ポイント増加した。
- ②むし歯予防に効果的なフッ化物の利用については、モデル市町村でフッ化物塗布の経験割合が9.2ポイント増加した。
- ③3歳児のむし歯有病者率はプロジェクト開始前後で沖縄県では10.5ポイント、モデル市町村では11.3ポイント減少した。全国との差は、沖縄県9.2ポイント、モデル市町村で10.9ポイント減少した。

以上3つの成果指標は全て達成することができた。

また、1歳6か月児健康診査時及び3歳児健康診査時に仕上げみがきを「毎日」実施している児で、フッ化物を「毎日使用なし」の児が「毎日使用あり」の児に比べ、むし歯有病者率はオッズ比が1.57倍（95% C I 1.01-2.44）高いことがわかった。

この様にプロジェクトの開始当初に掲げた3つの成果指標を関係者の協力を得て達成することができた。

「3歳児むし歯有病者率」は、プロジェクト開始前後で全国との差は縮小されたが、依然として全国の下位に位置する状況があり、今後も継続した取組が必要だと感じている。

最後に、プロジェクトの実施に当たって協力をいただいた市町村関係者、歯科衛生士会、歯科医師会、小児科医会の方々に深く感謝したい。今後も子どもの歯科保健の改善のために引き続きお力添えをお願いしたい。